

GLOBAL GAZETTE

大分県立芸術文化短期大学

国際総合学科 通信

Summer, 2020

令和2年度第1回オープンキャンパス開催

7月23日(土)、今年度ではじめての国際総合学科オープンキャンパスが開催されました。感染症対策のため、例年とは異なりオンラインでの実施でした。事前申し込み制でしたが、大勢の方に参加していただきました。ありがとうございました。

プログラムは「学科紹介」「入試説明」「海外語学実習紹介」「語学ミニ講義(英語・中国語・韓国語)」「相談会」で構成され、短時間で盛りだくさんの内容でした。楽しんでいただけたでしょうか。

なお、芸文短大 HP からは「大学案内」「学科パンフレット」「募集要項」などが閲覧できます。今回参加いただいた方も、できなかった方も、ぜひ参照してください。つぎにお会いできる機会を心待ちにしています！

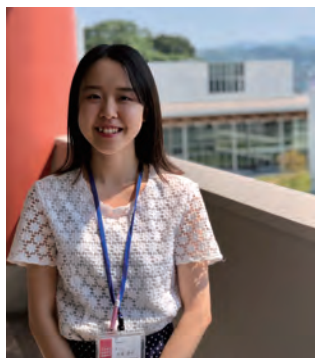


新助手・副手の紹介

4月に新助手として古澤希純(ふるさわ・きすみ)さんが、9月には新助手として宮岡優和(みやおか・ゆな)さんが着任しました。おふたりとも本学科の卒業生です。よろしくお願ひします！古澤さんから芸文短大の印象とメッセージをいただきました。

「入学当初からノートパー先生のゼミに入って英語を鍛えたいと思っていました。印象に残っているのは、大分国際車いすマラソン大会でのボランティア活動です。実際に海外の選手と

話したり文化を教えてもらえるだけでなく、英語での臨機応変のやりとりを学べました。大会はもちろんですが、当日までの選手との交流も楽しくて心に残っています。芸文短大には異なる特色の学科があるので刺激を受けられます。自分が積極的になればなるほど、先生方が親身になってくれて、充実感が増



してくる学科だとも感じました。いま学生時代を振り返ると、やりたかったことが沢山うかんできます。2年間は長いようであつという間です。「いつかやろう」ではなくて、何ごと



学生のうちに実行したほうがいいと思います。成功しても失敗しても、学生のうちならやり直せます！」

どうもお世話になりました！

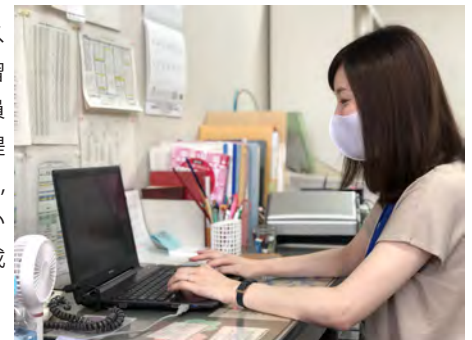
8月末をもって、外国語実習助手の河室湧泉(かわむろ・わくみ)さんが退職されました。河室さんは本学科の卒業生でもあります。学生時代の印象や思い出をうかがいました。

「もともと英語圏(とくにヨーロッパ)に興味があったので、イギリスのゼミを選択しました。学生時代はネイティブの先生による英語コミュニケーションの授業をとくにたくさん履修していましたが、それ以外で印象に残っているのは「秘書実務」の講義です。お茶を何度で淹れるとか、電話をとったときのメモの仕方、お辞儀の角度などを習いました。とにかく面白くて、卒業後もとても役に立ちました。

芸文短大の良いところは、語学の授業の充実です。ずっと英語しか使わない授業は勉強になりました。学生のときは自分の興味あることにしか目がいていなかったのですが、視野を広げてみると、情報系の授業や他学科の授業もとることができます。意欲さえあればいろいろなことが学べる大学だと感じています。

新型コロナウイルスのため、いまの在學生は大変だと思います。ただ、あまり登校しないからといって、アルバイトはし過ぎないように。卒業後にいっぱい働けますから、いまは学生時代にしかできないことを楽しんでください！」

オープンキャンパスでの「海外語学実習紹介」の際は、教員や在學生が作成・提供した文や写真を、河室さんが見やすいスライドとして構成してくれました。



国際総合学科 Facebook ページ



<https://www.facebook.com/geitanglobal>



先生方へのインタビュー（アジア編）

本学科で講義をしている先生がどんな学生時代を過ごしていたのか気になりませんか？ 今号と次号では、みなさんのそんな関心にお応えします。まず今回は、韓国研究が専門の朴貞蘭（ぱく・じょんらん）先生と、中国研究の許挺傑（きょ・ていけつ）先生にお話をうかがい、つぎの3つの質問に答えていただきました。

Q1 高校生のときはどのような進路を考えていましたか？

Q2 日本に留学したときの印象（思い出）を教えてください。

Q3 本学科に進学を考えている方へメッセージをお願いします。

朴先生のお話

A1 第2外国語として学んでいた「日本語」を、進路に活かしたいと思っていました。だから「日本語日本文学科」がある大学に進学。大学では「日本近代詩」ゼミに所属していましたが、当時の先生から留学を勧められ日本への留学を決めました。それから、……〇〇年が経ち（笑）、現在にいたっています。

A2 東京都・JR 中央線沿いの各駅に、多くの思い出があります（笑）。定期券を買っていたので、時間がある時には駅ごとに降りて、色んなところを訪ねては自分の日本語が正しく伝わっているのか試してみたりして。とにかく当時は、日本のあらゆるところが好きで、すべての体験が楽しかったです。

A3 皆さん、アンニョンハセヨ？ COVID-19の影響で、以前とは異なる日常を送ることになってしまいました。海外とつながりのある職業を持ちたいと考えている学生の中には、色々不安もあるかと思いますが、しかし、新たな時代へシフトしようとする今こそ、日本や諸外国におけるグローバルな視点や感覚を学ぶ時だと思います。国際総合学科には多くの発見や学びがあります。ぜひ、チャレンジしてみてください！



「好きな K-POP アイドルグッズを持ち込んでのゼミ写真」
(2018年撮影)

許先生のお話

A1 高校の時、英語が得意科目だったため、将来は英語の先生になりたいと思っていました。しかし、専攻をどうするか真剣に考えた結果、あえてまだ学習者数が少ない日本語を勉強したほうが就職の際に有利になると思い、結局、大学では日本語を専攻することにしました。現在は中国語の先生になっていますが（笑）。

A2 来日したのは2006年の3月です。日本語能力試験の最上級の1級にも合格したものの、まだまだ思うように上手にコミュニケーションできない自分があることに悩み、また、将来は大学で日本語の先生になるという夢もあったため、留学を決意しました。結果、今日に至るまで15年近く日本に在ることになりますが、最初の日本の印象は、とにかく中国に比べ、物価が高いということでした。100円ショップでお買い物しても、1個買うたびに、「あ～また7元だあ～（100円はおおよそ中国の7元であり、7元あれば、中国の大学の学食でお腹いっぱいまで食事ができたものです）」と値段を計算しながら、買い物をしていたのを今でも鮮明に覚えています。また、ろくに料理もできない自分がなぜか焼きそばだけは結構うまくできました。結果調子に乗ってしまい（金銭的な事情等もあるが）、焼きそばを作りまくっていたら、いつの間にか、焼きそばへの拒絶反応が起きてしまい、それ以来、私は焼きそばを一口も口にしていません。その他、皆留学生の私にやさしかったということも印象に残っています。自分がこうやって大学の教員に成れたのも、先生や友人いろんな方のサポートがあつてのことだと心の底から感謝しています。



中国語学実習の集合写真（中国武漢市・江漢大学）
2019年2月撮影

A3 英語以外の言語で、中国語の勉強もしてみたいという学生さん、ぜひ国際総合学科に来てください。授業はもちろん、スピーチコンテストや語学留学、中国人留学生との交流など、中国語を上達させてくれる環境が充実しています。ゼロからでも、正しく粘り強く努力すれば、2年間だけでもかなり中国語力は伸びます。語学の上達には、近道や特効薬などはありません。毎日コツコツと継続するのみです。



◎写真は前期の授業開始日（5月）の様子です。本学では後期もオンライン形式を主体にして、感染症対策をしっかり講じながら授業をすすめていきます。

国際総合学科 Instagram ページ



<https://www.instagram.com/geitankokusa>

